

〈黒いあいつ〉

このところ、“黒いあいつ”が畑の周りに群がっている。その数、30~40羽。隣の畑になにやらエサになりそうなもの（どうも糠のようだが）をまいたせいかもしれない。人が近づけばさすがに飛び立つが、あの黒くて大きい鳥が数十羽も群がっているとちょっとビビる。昔、ヒチコックの「鳥」を観たがカラスと言えども集団で襲いかかってきたらかなり怖い。現に、子育て中の巣近くを知らずに歩いていたりすると、後ろから襲われたりする。賢い鳥だから、人間の顔も覚えているようで、私の顔も覚えられているかもしれない。以前、ブルーベリーを覆っていたネットの中に入りこんで出られなくなったカラスがいたが、その時、周囲にたくさんの仲間が集まって、ガーガー鳴きかわしていた。



「大変だ！仲間がつかまりそうだ、何とか助けなくちゃ。犯人はあいつだ、あの顔よく覚えておけよ、あいつは危険人物だぞ」と間違いなく“緊急事態”を仲間知らせている鳴き方だった。以来私がいる時には畑にはあまり近づかなくなったが、あの時の異様とも思える鳴き方はまさに仲間の危機を心配しての鳴き声だった。物を食い荒らす、糞害もひどい、うっかりしていると襲われる危険もある、そんなカラスだが、他の鳥とは違う“何か”特別なものを感じる。時に人を小ばかにしたような鳴き声や、哲学者然とした顔つきでこちらを観察するような仕草は何かの化身のようにも思える。

“危険人物”なのでなかなか近づいての写真は撮れないが、今度知恵比べしてみようと思う。